

2022 京都集会 あそび分科会 分散会別提案要旨

A 分散会

【仙台】渡邊友美「心が揺れる遊びに出会い自信をつけたYの姿」岩切たんぼぼ保育園

年長ゆり組15名（発達支援センターに通う子2名）、担任は4歳からの持ち上がりです。「保育者の話を素直に聞きすぎる」子どもの姿に「本当はどう感じているのか」と思っていました。普段の遊びでは感じることでできない「自然を相手にした遊び」（池づくり、ザリガニ釣り）を通して、悔しい、嬉しい、もう一回やりたいという「心が揺れる遊び」を「友達と一緒に」経験したことで子どもがかわっていったという提案です。「夢中になれることがある」「自信がつく」というあそびの内実について、あらためて考えてみることでできる実践です。

【北埼玉】山本美菜子「あそびを通して仲間の中で育ちあう」ゆずの木保育園

3歳くり組19名（新入園児3名）、担任2名、主担任は0歳からの持ち上がりで、「しっかり自己主張をするにぎやかな」子どもたちです。「仲間と遊ぶ姿になるまで一年以上かかった」Mのあそぶ姿を中心とした提案です。「夏に自分の世界をあそびきったMが、友達のごっこあそびや、オニごっこ等に混ざりあそぶ姿が増えました。ただ、仲間との時間の増加とともに「楽しくなると興奮して、自分の気持ちを抑える事ができず、友達を押ししまったり、上手く集団で遊ぶ事が難しく」くもなっていました。あそびのなかで相手の気持ちに気づき、じょじょに変わっていく子ども同士の関係が見えてくる実践です。

【千葉】天野結衣「子どもとつくる保育の楽しさ」鎌ヶ谷ひかり幼稚園

3歳こあら組18名、担任1名、補助1名。「誰かと繋がる事への喜びをみんなが感じてくれていたら嬉しい」と保育者が願う保育の中で、「一番大きい存在」がスリランカ出身のサヨン君だったことを含む提案です。それぞれの子どもの「お家ごっこ」の経験を通して、「神経質なところもあり痲癩やチックが出る」状態から「周りをうまく巻き込み、おもしろさを広げていける」ようになったり、「周りの空気を読んでから動く事が多」かった人が「自分のアイデアを出す事ができ」るようになったり。自分の「良さやアイデアを出せる」とことと「ごっこあそびの充実」について考えられる実践です。

【東京】飯塚咲月・神田朋実「“やりたい”気持ち・“やりたくない”気持ちに向き合って」

平塚幼稚園

年少たんぽぽ組28名（うち9月転入2）、担任1名と非常勤1名。あそびの中にある「楽しい気持ちの共感」だけでなく、「怖い」「やりたくない」といった気持ちも大事に取り上げることの意味について思索が深まる提案です。たとえば、「しっぽとり」では、「追いかけて遊び」以前に「ネコやネズミの役割そのものを楽しんで」いる。つまり「ルールのある遊び」は「役割を楽しむごっこ遊び」ともつながっていて「そこからルールが作られていく」。また「オオカミさん今何時？」では「追いかけることに抵抗がある子ども、友だちと一緒にやらしてみようと思えた」というように、あそびの生成などについて考えられる実践です。

B 分散会

【静岡】山梨久美「なにげない日常的あそびが総合的あそび活動になる

～かわたろうとの出会い～」あおぞらキンダーガーデン

5歳たいよう組16名、保育者1名。「イメージを共有し、目的意識をもってあそびを創り出すおもしろさを味わうことを大切にしている」5歳の保育実践です。「かわたろう」は、「川で出会う見えない世界のもの」で「あおぞらの子ども達に代々引き継がれて」いる存在。川あそびからの「かわたろう」さがしが、他園との交流、宝さがし、運動会、秋祭り…と、年間を通じてイメージの世界が膨らみ、保育者の予想を超えた出来事も起こり、保育のおもしろさが実感されています。無計画のようにみえる「なにげない日常のあそびが総合的あそびになる5歳児」「集団がギュッとしたように感じ」ることなど、考えられる提案です。

【京都】山上日和 野村智美「わくわくドキドキ山遊び～みんなで作った秘密基地～」

こどもの森保育園

4歳12名（支援の必要な子9、手先の不器用な子2）、担任2名。一年目の提案者が「ルールのある遊びでは、タッチされたら怒る、泣く、飛び出す、そんな日々が続」き、「みんなで遊んで楽しかった」という時間がなかなかもてないことへの戸惑いを含んだ実践です。山遊びの秘密基地作りから「汚れたくないから登りたくない」から「汚れてもいいから友達と滑りたい」に変わり、「朝の集まりで全員が揃う日」「鬼ごっこを最後まで楽しめる日」「友達同士誘い合ってよく遊ぶ」ことが増えていく経緯がよくわかります。一緒にいることを楽しめるあそびが見つかることの重要性について、思索が深まる提案です。

【熊本】小澄美幸「かおかおスピーチ 2歳児こやぎぐみ」やまなみこども園ころぼっくる

2歳こやぎぐみ11名（進級7、新入4）、担任2名。気性が荒く自己主張が激しい人が多いクラスで、その日の気持ちを発表する「かおかおスピーチ」を思いつきます。選ばれた発表者が名前・年齢・好きな食べ物等の質問を受け、①にっこり②エンエン③プンポン④びっくり、4つの顔パネルから一つを選び、なぜその気持ちなのか発表してもらいます。「ノリが良くて単純な二歳児の面白さ」が爆発する、このあそびの提案です。「お互いに刺激し合いいろいろな感情が生まれ、友だちの存在を意識し思いを巡らせ葛藤する中で自然と許せることも増え」ていく、あそびを通して子ども同士の距離が近くなるとはどういうことかなど、考えられる実践です。